

# 特養ホーム「待機老人」

## 52万人は何処へ?

### 「伊豆に施設」の「杉並モデル」は

### 現代のうば捨て山か 追跡レポート



廃校を利用した木島平村の特養と芳川村長

「母の布団の下にマットを敷こうとしたら濡れた面が裏返しにされて隠されていたんです。認知症患者は病院の入院患者とは違って自分で文句を言う事ができないから、こういう酷い事をするんでしょうか。」

「周囲からは『何施設も申し込まないと入れない』と言われます。こちららも必死に探して申し込んでいます。でも厚労省の人は五十二万人の中には重複して申し込んでいる人がいるから、深刻な人はもっと少ない」と言う。実態を知っている、なおそう言う言葉が

「主人が七十歳くらいの時、認知症を発生しました。物忘れがひどくなり、一緒に歩いていても突然どこかに行ってしまう。お風呂の後でどれが自分の着替

冒頭の鎌倉さんの母親は現在要介護度四、認知症の症状も重く半年ほど前から有料老人ホームに入所した。三年前から冷蔵庫に幾つもの調味料を買って入れた。昨年六月に徘徊が激しくなり、特養二施設に申し込ませたが両方とも二百人以上待っていると聞かれ、仕方なく老人ホームに入れた。余剰資金がないので一時金が数十万円

「父親は耳が遠く筆談でないと意思疎通が難しい。まだと意思疎通が難しい。まだと意思疎通が難しい。まだと意思疎通が難しい。」

「介入に耐える日々だった。連れ合いの眞治氏(82、仮名)は現在要介護度五で、重い認知症を患っている。息子が二人いるが、いずれも自宅からは遠方に暮らしている。特養に入居を申し込んでいるが、入れぬまま間もなく九二年が経つ。」

一時金は工面できたが月々の支払いは約二十三万円。経済的には大きな負担だ。さらに施設のケアに対しても不安を持っている。「母の布団の下にマットを敷こうとしたら濡れた面が裏返しにされて隠されていたんです。認知症患者は病院の入院患者とは違って自分で文句を言う事ができないから、こういう酷い事をするんでしょうか。」

「周囲からは『何施設も申し込まないと入れない』と言われます。こちららも必死に探して申し込んでいます。でも厚労省の人は五十二万人の中には重複して申し込んでいる人がいるから、深刻な人はもっと少ない」と言う。実態を知っている、なおそう言う言葉が

「介入に耐える日々だった。連れ合いの眞治氏(82、仮名)は現在要介護度五で、重い認知症を患っている。息子が二人いるが、いずれも自宅からは遠方に暮らしている。特養に入居を申し込んでいるが、入れぬまま間もなく九二年が経つ。」

特養施設内の様子(写真はイメージ)

世田谷区副区長の秋山氏

「入居待機者五十二万二千一人……二〇一三年度に特養に入居を希望したものの、空きベッドがなく待機している高齢者の数である。前回の〇九年度調査では入居希望者は四十二万二千二百五十九人だった。わず

「周囲からは『何施設も申し込まないと入れない』と言われます。こちららも必死に探して申し込んでいます。でも厚労省の人は五十二万人の中には重複して申し込んでいる人がいるから、深刻な人はもっと少ない」と言う。実態を知っている、なおそう言う言葉が

「介入に耐える日々だった。連れ合いの眞治氏(82、仮名)は現在要介護度五で、重い認知症を患っている。息子が二人いるが、いずれも自宅からは遠方に暮らしている。特養に入居を申し込んでいるが、入れぬまま間もなく九二年が経つ。」

東京都内に住む五十代の鎌倉源子さん(仮名)は九十一歳の父親と八十三歳の母親の「ダブル介護」に疲弊しきっている。特別養護老人ホーム(特養)に入居させたいが、空きがなくて入れることができない。「この前、『特養待機五十二万人』というニュースをテレビで見ました。でもニュースの後でどこも対策を言ってくれない。私たちはどうすればいいんですか。ただ待っているだけなんです。介護のために私の仕事に影響が出ています。有給は全て介護で消費しますし、止む無く欠勤する事も増えました。周囲に申し訳なくして退職しようかとも考えましたが、この上収入も絶たれると、自分の生活が成り立たなくなるので、それもできません……」

「周囲からは『何施設も申し込まないと入れない』と言われます。こちららも必死に探して申し込んでいます。でも厚労省の人は五十二万人の中には重複して申し込んでいる人がいるから、深刻な人はもっと少ない」と言う。実態を知っている、なおそう言う言葉が

「介入に耐える日々だった。連れ合いの眞治氏(82、仮名)は現在要介護度五で、重い認知症を患っている。息子が二人いるが、いずれも自宅からは遠方に暮らしている。特養に入居を申し込んでいるが、入れぬまま間もなく九二年が経つ。」

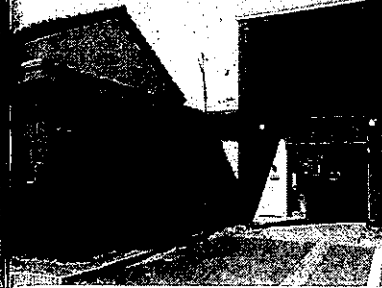
### 特養一施設が両方二百人待ち

つまり余剰資金もなく、重度の認知症などの患者の介護に耐えられなくなった家族にとって、最後のよりどころが特養なのだ。しかし、一二年十月時点で、特養は全国に七千五百五十二施設、四十九万八千七百床しかない。現状から施設を倍増させても、五十二万人すべてを収容することはできないよう



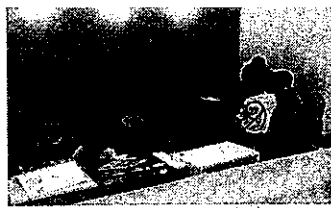
世界最高齢116歳の大川ミサヲさんも特養で暮らす

こぶし園旗田屋



えか分からなくなったり。目を離した時に一人で外に出てしまい、夜中まで帰ってこない事も何度もあった。警察に電話しました。ウチは一軒家で居間や寝室は階段を上って二階なんです。が、いつか階段から落ちるんじゃないかと不安で不安で……」

真治氏の足が徐々に弱ると共に徘徊の心配は減ったが、日常の介護は決して楽なものではない。食事の際、何度スプーンを口元まで持つて行っても食べない事もある。入浴の助けにヘルパーを頼んでも、真治氏が何十分も座り込みその場を動かさなかつた為、そのまま帰ってもらった事もあった。



旗田屋内のキッズルーム



こぶし園総合施設長の小山氏

増加や介護・福祉の雇用拡大というメリットがある。「ただ、課題も山積です。まず、施設の認可権は静岡県が持つので調整が必要です。また、南伊豆の方にとっては「杉並の住民が南伊豆で介護保険を使うと南伊豆の財政が圧迫されるのでは？」という懸念もありました。この点は住所地利権制度を利用します。入居者は基本的に住民票を南伊豆に移しますが、特例を使えば前の住所地が保険負担できるのです(同前)

施設は一七年度の開業を目指しており、杉並区からは五十名、南伊豆からも三十名が入居する、計八十人規模となる。

杉並と南伊豆の連携は、「杉並モデル」と呼ばれ、

今は入居を申し込んでいる特養のデイサービスとショートステイを利用し、何とか「自宅介護」を続けている状況だ。

「デイサービスは週に三回ほど利用し、一週間の世話をお願いできるショートは月に一回利用しています。この間は本当に助かります。主人が家にいる間は、基本的に買い物にも出られず自分の事は何もできません。二十四時間介護です。老人ホームへの入居は年金があると言っても、毎月十万円、二十万円を十年間以上払い続けるのは無理です」

昌代さんは諦観が混ざった表情でこう語った。

「困もお金がないし仕方ないです。最後は共倒れになるかも知れませんが、あと十年介護するつもりでまだまだ頑張ります」

特養が足りていないならば、速やかに作ればいいのか、とは思えぬが、現状はそのような動きにはなっていない。

というのも、厚労省の現在の介護についての大方針が「施設から自宅・地域へ」

地方の自治体にとって大きなヒントになった。都市部の高齢者を引き受ける施設を作り、福祉で町おこしを実現しようと模索する自治体も出てきたのだ。

長野県木島平村、長野駅から千曲川に沿って在来線で四十分程走る。人口約五千、山々に囲まれた美しい集落だ。最寄り駅の飯山には来年北陸新幹線の新駅が完成する。村長の芳川修二氏は「杉並モデル」に

「残りの七十床は、全て村外の都市部から受け入れた。長野県と東京都での調整になるが、都市から補助金を入れて貰って建物を作らなければならない。東京の自治体にしたなら、都市部の何分の一という値みだいな低コストで特養ができます」

また、農村部の持つセラピー機能を活用した施設にするつもりです。認知症ケアにアニマルセラピーなどが使われるように、園芸を利用したケアなどを実現していく。村には農林高校が

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

強い意欲を示す。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

「我々の様な農村地の経済は公共工事に依存してきました。しかし今はその仕組みは成り立たない。建設に代わる産業として福祉に集中したいと考えています」

木島平は今年四月に、廃校になった小学校の建物を利用して特養を開業した。現在は約三十人収容の小規模特養だが、経営バランスを考えると百床まで拡大する事が望ましいという。

### 「杉並モデル」で町おこしを模索

つまり従来型の特養が今後、我々が住む町の中で加速度的に整備される事はあり得ないと言っている。

そんな中、ある取り組みが注目を集めている。

静岡県南伊豆町。夏は数万人が訪れる美しい白砂浜が有名な弓ヶ浜海水浴場のすぐ目の前で特養の建設計画が進んでいる。

この地に建つ予定の特養は地元南伊豆ではなく、東京都杉並区の施設なのだ。杉並区が南伊豆町に所有していた土地に杉並区の予算などで特養を作り、杉並区が運営する。

「厚労省が進める地域包括ケアに沿った事業も進めていますが、南伊豆の件は『施設が必要だ』という住民の声に答える為に立ち上げたプランです。これが高齢者対策の切り札とは思っていません」

「昭和四十年代から、杉並区の住民が公害などで体調が悪化した時、転地療養する為の施設が南伊豆にありましたが、平成二十三年度に閉鎖しました。すぐ隣には区民が利用できる弓ヶ浜クラブという療養施設があります。閉鎖した土地に特養を作り、家族は南伊豆に旅行のような気持ちで訪れて隣接する施設に宿泊し、入居者とゆっくり面談するという『保養地型特養』と

定員三十人以上の特養を例に取る。

〇四年度以前は、施設を建てる際、国から二分の一、都道府県から四分の一の補助が出た。事業主の負担は四分の一である。しかし、小泉純一郎政権での〇五年「体の改革」により〇五年に「国から都道府県に対して二分の一相当の交付金を交付」と削減され、〇六年には廃止された。

杉並区には特養は十二施設あるが入居申込みでベッドの空きを待っている人は約二千名にも上る。区ではこれを受けて一二年度からの三年間でまず三百床、十年間の長期計画では千床を整備する方針だ。しかし八十〜百床規模の施設を作るには約三千坪の土地が必要で、地価の高い杉並でそれだけの土地を探し、確保する事は簡単ではないと言っている。そこで南伊豆の名前が浮上してきた。

「昭和四十年代から、杉並区の住民が公害などで体調が悪化した時、転地療養する為の施設が南伊豆にありましたが、平成二十三年度に閉鎖しました。すぐ隣には区民が利用できる弓ヶ浜クラブという療養施設があります。閉鎖した土地に特養を作り、家族は南伊豆に旅行のような気持ちで訪れて隣接する施設に宿泊し、入居者とゆっくり面談するという『保養地型特養』と



高知県議会の浜田議員

「初めて聞いたときに、非常に興味深い取り組みだと思いました。高知は全国で三番目に高齢化率が高い県ですから高齢者問題には常に意識を持っています」

(浜田氏)

高知県内の在宅特養入居希望者は約六百人。「南伊豆型」を実現することができれば都市部の補助金で特養を作り、高知の入居希望者の待機問題も解消すると同時に雇用・景気対策にもなる。だが検討会の結論が「慎重論」に終始した事で現状は様子見だ。

「実際に杉並の事業が始まった時に厚労省がどんな見解を示すか。我々の判断はその時点にならないと難しい」(同前)

山形県舟形町は、熱烈な「杉並モデル推進自治体」として知られていた。しかし

町役場関係者はこう言う。

「厚労省が地域包括ケアにこだわっているため、視界不良です。舟形町はすでに東京二十三区全てにアプロ―チし、二十二区で高齢者実態調査を実施しています。実際、一人暮らしで要介護度が高く、生活上に困窮している高齢者が多かった。これに認知症が加わるとどうしようもない。うば捨て山」という批判もありますが、実際に困っている人も数多くいる。検討会の先生方は現実を見ていない気がする」

秋山副区長の指摘する「高齢者の尊厳」の一方で、家族にとっては「待ったなし」という現実。果たして、待機老人、問題を解消するために、どうすればいいのだろうか。

地域と都市部の連携に「消極的賛成」と語るのは有料老人ホームなどを運営する生活科学運営の浦田慶信代表取締役社長である。「私が危惧するのは、〇九年に無届け施設で、たまたゆら」で起きたような事故(建築基準法違反の建物での火

災で十人が死亡)です。すでに高齢者介護のセーフティネットには穴が開いていると言わざるを得ない。また無認可の施設で悲惨な事故が起きるような事態だけは防がないといけません。そのためには、地元を離れてしまおうとはいえ、正式な特養である杉並モデルの方がいいと思うのです」

一方、「杉並モデル」と異なる視点の提言もある。介護問題に詳しいタムラブ

## 二〇二五年から日本は「総介護時代」

新潟県長岡市にある高齢者総合ケアセンターこぶし園は、田村氏が言う地域ケアの先駆的な存在だ。

ランニング&オペレーターテイニング代表取締役の田村明孝氏は次の様に語る。「この状況では、有料老人ホームや特養などのくくりを一度見直した方がいい。要介護度三以上や認知症を患った高齢者が、希望すれば入居でき最後まで看取ってもらえる、そういう安心の住まいを、地域に必要な数だけ確保する。地域ケアの政策に、至急着手すべきです」

こぶし園は今年三月まで数年間かけて従来型の特養を段階的に解体し、入居者を市内十七カ所の「サポーターセンター」に移した。センターはおおむね半径一、三キロ程度、中学校の学区に一つ作るイメージだ。入居者は山の中にあつた施設から以前の生活地域の中に「戻ってきた」のだ。

サポーターセンターには老人ホーム機能やグループホームを併設する。特養から移った入居者に加え、地域に住む高齢者もショートやデイケアを受ける事ができる。さらにキッズルームやカフェも整備しており、地域住民にとっては公民館のような存在になっている。

特養というハコの解体は、より数多くのケアを行うために有効だと言う。総合施設長の小山剛氏が語る。「例えば辺鄙な場所にある百名収容できる特養を、十名ずつ十カ所の地域に移

し、その場所にケア機能を持たせる。すると従来の十名に加え、地域の高齢者に十名でも二十名でも気軽に通ってもらうことでケアできます。介護に疲れた家族はみんな特養に入れたいと言う。家族の苦しさは分かりませんが、高齢者は誰も本心では施設には入りたくない。地域にケアを行う小さい。住まい。のような場所がたくさんあれば、特養の施設に入れっぱなしにしないで、家族の負担は相当引き受けられる」

ただし、この方式も都市部に関しては、土地や建物の費用を賄えるかという問題は根強く残る。さらに介護業界は慢性的な人手不足だが、このやり方の場合、より多くの働き手が必要のため、人手を集められるか、その人件費を負担できるかという点については、従来の特養よりもハードルは高くなってしまふ。

団塊世代が七十五歳になる二〇二五年から、日本は「総介護時代」に突入する。あと十年ほどで、果たして何ができるのだろうか。